

「若者ととともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ 「今日からあなたに何ができるか？～塩尻で語る若者未来会議～」

日時 平成28年2月4日（木） 午後6時から8時まで

場所 塩尻市市民交流センター（えんぱーく）5階イベントホール（塩尻市大門一番町）

目次

1 開会	．．．．．	P 2
2 意見交換	．．．．．	P 2
3 知事総括	．．．．．	P 16
4 閉会	．．．．．	P 17

進行役 山田崇氏（塩尻市企画政策部企画課シティプロモーション係長）
参加者 県民39名
阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、同じテーマについてグループに分かれて意見交換を実施しました。

各テーブルの意見交換の内容は省略してあります。

1 開 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

それでは、皆さんお待たせいたしました。ただいまから「県政タウンミーティング」を開催いたします。意見交換までの進行を務めさせていただきます、私、長野県広報県民課長の藤森茂晴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「地方創生」のトップランナーを目指す本県では、若者の皆さんと5回にわたるタウンミーティングを含め、これまで多くの県民の皆様、団体などからご意見をお聞きした上で、昨年10月「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」を策定いたしました。これを踏まえ、本日の県政タウンミーティングでは、意欲ある参加者同士が交流して、これから自分にできることや、こんなことに取り組んでいる、取り組んで感じた悩みなど、思いを共有して次の一歩を踏み出すきっかけづくりの場にしていきたいと考えております。

それでは、午後8時までの予定でこれから意見交換に入ってまいります。

なお、全体での意見交換の内容は、お名前などの個人情報を除きまして、後日、県のホームページで公開させていただきますのでご承知おきください。

本日のタウンミーティングは地元、塩尻市役所の山田崇さんに進行役をお願いしております。山田さんのプロフィールは、お手元の次第をごらんいただきたいと思います。山田さんはこちら塩尻市のご出身で、現在は市の企画政策部企画課でシティプロモーション係長をされております。「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクトnanoda」を2012年から開始されたほか、地域課題の解決に向けた各種の組織を立ち上げ運営されるなど、公務員の枠にとらわれないさまざまな活動に取り組んでおられます。「地域に飛び出す公務員アワード2013」大賞や、去年は読売新聞主催「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で主催者賞を受賞されるなど、全国で注目の公務員であることは皆さんもご承知のとおりだと思います。

それでは、山田さん、この後の進行をお願いいたします。

2 意見交換

【山田崇氏】

よろしくお願いいたします。皆さんもそうだと思いますが、私も緊張していますよ。

まず、この場にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今日、若者のみんなと話そうということでお集まりいただきました。「若い人たちが何を話すか、興味があるんだ。」という、ちょっとご年配の方たちは周りにグルッといて、皆さんがどんなことを話すのか聞きたいということでお集まりをいただいております。これは県内で幾つかやっております、今日は中信ということでこの塩尻を選んでいただきました。本当にありがとうございます。

それでは、早速いきたいと思います。2時間あっという間だと思います。お茶がありますし、お菓子もあります。誰かが食べればみんな食べると思いますので、一番年配の方から食べてい

ただくと若者が食べやすくなると思います。

さて、塩尻市では、第5次塩尻市総合計画を平成27年度からスタートしました。9年間の計画です。計画の2年前から、市民の方たちとの対話の場をどうつくっていくか、そして塩尻の未来を市民の皆さんとどう考えていくかということがスタートしました。「今までこんな会議をしていた。」という塩尻未来会議の手法を少し用いながら、みんな一緒に塩尻から長野県を考える、今日はそんな機会にしていきたいと思っております。

私は市の企画課のシティプロモーション係におりまして、信州大学でも共同研究をしております。今日は久しぶりに阿部知事ともお会いできました。TED×SAKUでは私、席が隣だったんです。今日はお会いできて本当にうれしいです。知事も応援されておりますが、「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」というのがあるんです。元気な公務員が生まれるためには、それを応援する首長が必要だということで、こんな機会をいただきまして本当にありがとうございます。

今日は、素敵なゲストの方お二人をお呼びしました。それから、2011年に空き店舗がゼロになった下諏訪町の御田町からも、お二人のゲストにお越しいただいております。そして、今日は対話が一番のメインとなります。これは途中で席を交代しますので、「このまちにこんなものがあつたらいいな。」「こんなことをしようと思っている。」「自分、実はもうやってみたくがあるんだ。」あとは妄想でもいいです。「こんな未来になればいいな。」こんなことを対話していきたいなと思っております。「このまちにこんな機能があつたらいいな。」そんなことを皆さんが声に出して発表する場を30分とります。急に発表というのは難しいので、皆さんの封筒の中にA4の紙が2枚あります。そこに「こんなものがあつたらいいな」ということを大きく書いていただき、後ほど発表していただきたいなと思っております。それから、感想や気づきの共有をして、8時終了予定となっております。

塩尻市では、この総合計画をつくるに当たり、地域ブランド戦略や、知の交流と創造の拠点となるのがこのえんぱ一くです。今日は県の方にこの会場も選んでいただき、本当にうれしく思っています。ライブラリー・オブ・ザ・イヤー優秀賞を受賞したこの場で、塩尻から長野県の未来を皆さんで語っていききたいなと思っております。

塩尻未来会議、直近では11月29日に開催をさせていただきました。市民とのコンタクトポイントをどうとっていくか、私の声が自分のまちになる、それがシビックプライドの醸成につながっていく。こういった取組で始めております。今日、お二人のゲストを呼んでおりますが、塩尻をもっと好きになったり、塩尻がもっと元気になるというのはどういうことなのかについて、ちょっとご紹介しましょう。今日は鎌倉から、シビックプライド研究会の紫牟田伸子さんにお越しいただいております。どうぞ。

【紫牟田伸子氏】

よろしくお願ひします。「シビックプライド」という本を執筆しています。本当に今、いろいろなところでシビックプライド、つまり、ただ、まちを自慢するだけじゃなく、まちをもっと良くしていこうという市民の活動がすごく増えているなということを見て、研究し、本に書きました。塩尻でも、もっとそういうことがどんどんできていくといいなということを考えて、

ここに来ております。

【山田崇氏】

長野県では2つの事例が紹介されておりまして、松本市の工芸と松本山雅。

【紫牟田伸子氏】

サッカークラブをつくり上げられたということは、まさにシビックプライドなんです。自分たちで自分たちのまちをもっと楽しくしていこうという事例と思いますね。好きだということ自分で表明することがシビックプライドなんです。例えば、建物をリノベーションすることもそうだし、自分でお店をすることもそうだし、行政に参加することももちろんそうだと思います。

【山田崇氏】

実際に11月29日に「僕たちこんなことをやりたいんだ。」という声を挙げていただきました。「ゲストハウスをやりたい。」「女性をもっと働きやすい社会に。」「町の中を元気にしよう。」「塩尻を自転車の町にしていきたい。」いろいろな思いを持った方たちが集まって、まずは声に出してみる。それがどう実現されるのか、こんな取組をしてきました。これはそのときの様子です。

そのとき実際に参加していただいた左京さんをご紹介します。このえんぱーくが2012年7月にオープンしたときに、左京さんはNPO法人シブヤ大学の学長をされておりまして、キャンパスを持たない、まち全体が大学だという市民大学を既にスタートされておりまして。私もえんぱーくで左京さんに講演をしていただいたんです。それがご縁で。早稲田大学のラグビー部のキャプテンだったんですよね。福岡出身で、あの五郎丸さんの先輩と紹介するんですけども、本人はいつも何かはにかむんです。左京さんとは、地域を越えてどうやって外から人を呼ぶかということと一緒にやらせていただきました。今日の御田町商店街の取組も、実は塩尻だけじゃなくて下諏訪、岡谷という中山道をテーマにした観光資源の発掘ができないかということで、昨年1年かかわらせていただきました。こうしたきっかけもありまして、今日はその中で、どうして下諏訪の御田町を選んだかというところを左京さんにちょっとお話いただきたいなど。

【左京泰明氏】

御田町商店街は観光プロジェクトにかかわらせてもらって初めて訪れたんですけど、最初、一瞬歩いても普通の商店街なんですけど、聞けば空き店舗率がゼロだと。何でなんだろうかと歩いていると、何とていこうかおもしろいお店がいっぱいあるんです。ギャラリーをやっている人とか、すごく素敵な専門的なスピーカーを使っている方とか、自転車をつくっていらっしゃる方とか、何でこんな人たちが集まっているのかなということがすごく気になっていろいろ聞いてみると、やっぱり理由があって、一朝一夕でできてきたわけじゃなくて、いろいろな人がかかわって長い時間をかけてそうなってきたということとか、あるいは、今日いらっしゃっています

けど、素敵なゲストハウスがあって、それがまた新しい町の交流の基点となって、それがより活性化してるような。自然発生的に商店街が埋まっていくんじゃなくて、いろいろな人の創意工夫があってそうなってきているんだなということ、そこで感じたんですね。なので、先ほどまちを歩いて空き店舗の普段を見てきましたけれども、もちろん御田町商店街は一つの参考であって正解でも教科書でもないと思うんです。これを参考にしながら、塩尻の町も商店街をどうしていくかを考えられたらいいなと思っています。

【山田崇氏】

ありがとうございます。今日は5時から15人ぐらいの若者と左京さんも一緒に、このまちを40分歩いていただきました。どうしてここが今空いていて、昔こんなところだったということをお話いただきました。

それでは、少し短い時間ですが、皆さんには実際に今、下諏訪の御田町商店街がどうなっているかということについて、お二人の方のお話をお聞きしたいと思います。では菊池大介さんです。さあ拍手しましょう。

【菊池大介氏】

今、ご紹介いただきました長野県諏訪郡下諏訪町にある御田町商店街から来ました。御田町商店街がどういう町で、どうして先ほどご紹介いただいた空き店舗ゼロになったかという話は、ダイジェストとしてホームページ見ていただければほとんど書いてあります。ただ、ホームページを見ても載っていないその裏で、どういう人がどういう思いでどう動いた結果、今の状況が生まれたのかということ、その辺をお伝えできればと思います。

僕は、御田町商店街にとってはよそ者です。2010年に空き店舗をお借りしてデザイン事務所を建てました。実は三足ぐらいのわらじで、下諏訪町でデザインをやって、京都で大学の非常勤講師をやって、東京で宇宙開発関係の仕事をしていて、おまけにLCVFMという諏訪のローカルFMのラジオをやってます。僕は素人パーソナリティなので、そんなに期待しないでゆるく聞いていただければと思います。ぜひリラックスして聞いてください。

3地域拠点という形で京都、下諏訪、東京。自分の中では、下諏訪は落ち着いて作業をする場所と考えています。月・火、下諏訪、水・木、京都、金・土、東京で、日曜はそのときにいるところという感じで、周りには住所不定有職と言われてはいますが、そんな働き方をしている、御田町商店街ではシェアハウスオフィスをやってます。一軒家をお借りしていろいろな方が入居し自分のやってみたい商売とかサービスをちょっと試してみたいというところに場所を開放して、一緒にシェアしていただいています。

御田町商店街の場所は諏訪湖畔をちょっと行ったところで、JR下諏訪駅から歩いて大体5分ぐらいです。すぐ近くには諏訪大社下社秋宮。今年御柱の年で、僕ももうすぐ丸坊主になるかもしれないですけども、お祭りのムードが今、高まっているところです。そこにある全長200メートルぐらいの商店街です。ざっくりですけども、東京・名古屋から大体2時間ちょっと。夜遅く帰ってくると塩尻で50分待ちという乗り継ぎがあって大変ですけど、観光も含めていろいろな方が下諏訪町へ集まっています。

御田町商店街、こんな形の町です。見てもわかるんですが、これは古い写真です。最近はこの形ですんなりに変わっていないです。空き店舗ゼロと言うと何かすごい賑やかなまち町を想像してこられる方、実は実際、この写真のようにシャッターが閉まっているところもあるんです。見た目はシャッター商店街という日もあります。ただ、先ほどもご紹介ありましたが、よく見ていくとおもしろいお店、実はシャッターの向こうで木を切り硝子をつなぎ音を出して、いろいろな創作をしている、そんな町です。御田町の歴史はホームページを見てもらえばいいと思いますが、全国的に商店街の空き店舗が増えている中で、御田町商店街も2003年に約30件の店舗の3分の1が空き店舗になっていました。それが2011年、約8年で空き店舗がゼロになりました。御田町商店街には現在、もし空き店舗ができれば入居させてほしいというウェイティングリストが存在しています。

今日のポイントとして、テーマは「その8年に何が起きたんだろう」ということと、これから「この土地の人たちが何を起こしていこうとしているのだろう」ということを紹介していきたいと思います。まず、キーワードを3つ挙げます。空き店舗をゼロにした立役者の3グループがあります。グループ1つ目は御田町商業会。これは商店街の店主さんたちが集まった一番古くからあるグループです。売り出しとかイベントの企画運営、いわゆる商店のメンテナンス、そういったことをやっています。商店街から若者がいなくなっていくという話をよく聞きますけれども、そんな中、逆行して2014年に御田町商業会青年部というのが発足して、今、いろいろ活動しています。2つ目のグループは、みたまちおかみさん会。ここは店主の方の奥さん、おかみさんたちが、商業会とは別にグループをつくっていろいろなイベントをしたり、空き店舗を借りられる状態にしてくれる活動をしてきています。そして、3つ目のグループは、NPO法人匠の町しもすわあきないプロジェクトという2005年に設立されたまちづくりのNPO法人。事務局が御田町商店街の中にあります。いろいろなまちづくり事業の企画や運営、創業の支援もNPOとしてやっています。この3者がまずグループとして御田町商店街にいらっしゃいます。

もともと事の起こりは2005年、NPO法人匠の町しもすわあきないプロジェクトの皆さんが「空き店舗が増えたね。とりあえず何か遊んでやってみようか。」というその発想が、まずおもしろいと思ったんです。お金をかけないで自分たちでちょっとおしゃれな空間に改装したらおもしろいんじゃないかということで、最初は本当に遊びで1件空いていたところを素人大工でDIYできれいにして、機織り機を置いたら何かそれっぽくなった。それっぽくなったというのがもう最高到達点だったんです。これがきっかけでセルフリノベーションをして、その空間で何をやるわけでもないけど集まることをスタートしたところ、場ができて、そこでイベントをやってみたいとか会議させてほしいとか、テーブルをつくるんだったら僕つくってみたいとか、そういうふうにごんごん人が集まってくるような始まりでした。要するに、商店街によそ者が訪れてきたんです。商店街の店舗をよそ者が何か使ってやろうということで集まってきました。次のステップで活躍するのが、今度はみたまちおかみさん会です。では、たくさん点在していた空き家をよそ者にも貸してみようじゃないかと。大家さんの許可とか家賃の問題とか、そもそも空いてはいるけど貸すのは面倒くさいという大家さんの意向を2年3年、何度も交渉して働きかけ、若い方がすごく安く借りられるように交渉を地道に続けて、若者、よそ者が空

き家を借りられるような環境を整えてくださいました。家賃交渉からご近所づき合い、おせっかい、暮らしのサポート、夕暮れの語りとか、いろいろな活動をしてサポートしてくれる中で、どんどん若者が集まってきました。今日まさにここにいらっしゃる、僕より全然若いフレッシュな方々と同じような面子が集まって、町で何をしようと考え始めました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、これが女性二人組で最初スタートした洋裁の作品をつくるお店です。また、この写真、自分たちで改装してすごく素敵な空間をつくられました。そうしたら、この空間を呼び水にして、ここのお店を訪れた人が、この商店街はこういうトーンで、こんなおしゃれで、しかも自分たちで手を入れて改装して、かつ商売をやらせてくれる町なんだという一つのモデルケースになったんです。ほかに入居された方皆さん一度はこのお店を見ているんです。百聞は一見にしかず。この町で自分は何をやってみようという、現場に行ったときの想像力のふくらみや爆発は、すごくあったんじゃないかなと思います。そうこうしているうちに、いつの間にか空き店舗ゼロを達成したという流れがございます。

では一体、どういった人たちが入ったのかというのを最後にご紹介して、次にバトンタッチしたいと思います。この店、今は女性の方が布小物、美術、郷土玩具の復刻もされています。機織り。木工は現場に行ってもらおうと圧倒されます。ストップモーションというミニチュアの町をお店の中につくっています。オリジナルのレザー製品の店。木工屋さんはお子さんが生まれて、店舗だけではなくて人口も増えている状態です。家具店。陶器。時計企画工房。まだ増えます。今月1店舗、来月1店舗、もう既に新規オープンが決まっています。ぜひホームページで情報チェックしてください。駆け足でまとめますが、御田町商店街の皆さんの思いを今日は追ってみました。皆さん口々に言いますが「空き店舗を減らすことはあくまでプロセスであり手段でしかない。」と。空き店舗を埋めることが目的ではない。本当の目的は地域の価値を高めて地域のファンを増やすこと。「何か御田町っていいね。」と言ってくれる人が一人でも増えるんだったら、そのためにちょっと苦労してでも誰かに空き店舗を貸してあげたほうがいいんじゃないかという思いで、皆さん動かれています。商業会の皆さん、おかみさんの方々、利用する皆さん、口々に「その状態を持続可能にすること」と語っていて、僕はこれすごくおもしろいなと思っています。空き店舗ゼロという数字には関心がなくて、入った人がどれだけおもしろい人か、その周りの友だちにどれだけおもしろい人がいるかというところを皆さんが気にしておられます。皆さんの言葉として「僕たちがやっている地域おこしというのは、エンドレスの駅伝だから。」ということで、たすきをどういう形で次の人に渡して、その次の人たちがどういうたすきを渡したいか、それをどれだけサポートできるかと考えていらっしゃいます。

では、実際にそんなサポートも受けながら、先ほど紹介した延長線上にゲストハウスを開業された斉藤希生子さんにバトンタッチをして。皆さんご存知だと思うんですけども、ゲストハウスの紹介や、なぜオープンしたかを。

【山田崇氏】

ありがとうございました。では、斉藤希生子さん。キョンちゃんと呼ばれているので、今日はキョンちゃんていきますか。

【齊藤希生子氏】

ゲストハウスというものがどんなものかということと、今、私がやっていることを説明できたらいいなと思っています。お願いします。

今、下諏訪町で、築100年以上の老舗の旅館だった古民家、廃業してから20年ぐらいたっていたんですけど、そこで3年前から空き家になっていた建物を自分たちで改装をしてゲストハウスという簡易宿泊施設をやっています。最近はずूमになって地方にも増えてきたんですけど、ゲストハウスを知らない方も結構いらっしゃると思うので、まずゲストハウスの説明をします。

素泊まりの宿で相部屋が中心のところが多く、8人部屋の相部屋、同じお部屋に二段ベッドが4つあって、全然知らない人同士で泊まる。ちょうど写真にあるみたいな感じのお部屋です。素泊まりで利用できるのも、近所のご飯屋さんに行ったりお風呂に行ったり、町を歩くきっかけにもなる宿という感じです。キッチンやシャワーやリビングルームなどのスペースは共有で、ほかの宿泊者の方と一緒に使っていただくのも、ほかの宿泊の人と交流ができたりの大きな特徴の宿です。長野県は結構ゲストハウスが多く、地方でも多くて今20軒ぐらいいあるのかな。今、伊那にもつくっているところがあったり、木曽福島でもつくりたいというのが来ていて、かなり増えている施設です。

2014年の8月にオープンして、今は毎月300床ぐらいいは埋まって、平日でも結構人が来てくれるようになりました。リピーターさんだったり家族、お子さん連れの宿泊の方も結構多くて、すごくありがたいです。何で下諏訪で始めたかという話をしたいと思います。地元じゃないのに何で下諏訪なのかとよく聞かれるんですけど、大学で東京に出ていて、地元で宿やりたいとなったときに、実は私は諏訪地域6市町村のうちのどこでもあまり関係なくて、諏訪地域のどこかでやりたいなと思っていました。諏訪地域は観光客は結構多いんですけど、日帰りのお客さんがほとんど。でも、それは逆にいうとアクセスがすごくいいということで、東京からも一本で来れるし、名古屋からも2時間半ぐらいい。なので、通過してしまう人、日帰りで諏訪大社だけ見てすぐ帰るといふ人が多くて、そういう人たちが素泊まりの宿ができることでちょっと1泊、気軽に泊まって町を回って、諏訪大社とか諏訪湖だけじゃない町のいいところを知っていってもらえればいいなと思って、ゲストハウスをつくりました。もともと下諏訪町は老舗の旅館がたくさんあったんですけど、素泊まりで泊まれる宿がないということと、諏訪地域の6市町村の中では、すごく小さくていろいろなものがコンパクトにまとまっている町だったので、ゲストハウスを使うような人は、ちょっと低価格で泊まりたいという学生さんとか、海外から来たバックパッカーとか、そういう人が多いので、公共交通機関を使って移動する人が多い。なので、駅から近く、歩いていけるところにご飯を食べるところや観光するところがあるというのが場所を決めるときの条件でした。そう考えると、諏訪6市町村の中では、下諏訪町が宿をかまえるのに一番いい場所だと思って、物件探しを始めました。町の人に紹介していただいたんですけど、ちょうど駅から歩いて5分ぐらいいのところにもともと旅館だった建物を見つけ、そこを借りて3カ月間自分たちで工事して、オープンしました。そういう交通の便がいいとか、近くにいろいろなお店があるのかもあったんですけど、一番の決め手は、先ほど菊池さんが紹介された御田町商店街のようなおもしろいお店だったり、素敵なことをしている人たち

が下諏訪にたくさんいるというのを知ったということなんです。私も東京に出ている間は全然地元に戻ってくる気がなくて、地元はつまらない場所だとか何もないと思っていたんですけど、実際に地元で宿をやろうと思って帰ってきていろいろなイベントに参加していたら、さっき説明してもらったような小さなお店がたくさんあって、地元でも知らない人たちがすごくたくさんいることに気づきました。ゲストハウスをやることで、自分の知らなかった店を外の人にも伝えることができるし、宿には、地元でもこういうことができることを私みたいに一回出た人たちにも伝える役割があるなと思いました。そこが決め手になりました。

実際に泊まりに来た人たちは、下諏訪の名前も知らなかった人とか、関西の人というのは諏訪湖も知らなかったりとか、ちょっとショックだったんですけど、実際に来て地図を見ながら、ここにはこういう店主がいるとか、こういうものが食べたいならここのお店に行ったりとか、実はここからすごくいい景色が見えてとか、今はそういうことも説明しながら町を案内する役割をしているんです。そうすると、気軽に来れるから毎週末来たいと、本当に何度も泊まりに来てくれる人がいたり、地元の人との距離が近くてすごくいいねとか、町の人も知らなかったようないいところを、泊まりに来たゲストの方から教えてもらったりもします。お客さんの中から移住する人もいます。カナダ人の男の子は日本に移住して7年、何度も泊まりに来てくれて、案内したお店の方とも仲良くなりました。私のゲストハウスにはバーがあるんですけど、地元の人結構飲みに来ていて、そこでお話をする中で地元の人とも仲良くなって既に知り合いがたくさんいるという状態でした。今、御田町は空き店舗がなかったので、ちょっと外れたところなんですけど、ここから歩いて5分ぐらいのところちょうど空き家があって、そこを今、彼が改装工事中で、2月22日にカフェをオープンします。下諏訪町には午前中からやっているお店があまりないので、朝からモーニングができるカフェをやるということで、すごく楽しみにしています。

今、ちょっと話したんですけど、私のゲストハウスではバーを併設しています。これもオープンする前から決めていました。100円でも買えばそこに居られるという空間を作ることで、宿泊者以外の地元の人たちも来れるスペースを考えました。作った理由は、泊まる旅人は地元の人と交流をしたいという思いもあるし、地元の人にはわざわざ下諏訪を選んで泊まりに来る宿泊者とお話ができる。地元の人、全然知らない人同士が出会う場所は普段はなかなかないと思うんです。お酒を飲みながら自然に話をする中で、こんなことやってみたかったという思いがうまく合って何か新しい企画が生まれたり、一緒に山に登りにいく友だちができたり、いつ行っても誰かがいる場所があったらいいなと思って作りました。とりあえず、あそこに行けば誰かがいる、何かが分かる。旅人がどこにご飯を食べに行ったらいいか、何かおもしろい場所がないかということを知ってあげられる存在になりたいと思って宿を始めたんです。今は、実際に泊まらなくても、観光案内所にちょっと聞いて来たり、とりあえず下諏訪へ行くならうちへ行ったらいろいろ教えてくれると聞いて来てくれる方もいて、うれしいです。

御田町商店街の皆さんのように住んでいる人も楽しんで、自分たちのやりたいことをやって、それを遠くから来た人たちが見て、来た人もまた来たくくなるような町になったら、楽しい人や楽しい場所がもっと増えて、いい町になっていくのではないかと、これからもその一つの役割としてあり続けたいなと思っています。

【山田崇氏】

ありがとうございました。皆さん、こんな若い二人の心に触れて、さあよいよ対話に行きたいと思います。さっきも言いました、誰かがしゃべり出さないと、なかなか誰も手がつかないんです。ですので、まずここで、今日のテーブルで一番ご年配の方であるこの方に意気込みをちょっと語っていただきたいと思います。長野県知事の阿部守一さん。まずは皆さんに對話しようという、盛り上げのごあいさつをお願いいたします。

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんばんは。お話いただきました紫牟田さん、左京さん、菊池さん、斉藤さん、ありがとうございました。私は皆さんの話を聞いていて、実はずっとこう思っているんです。ちょっと前までは、地域を元気にするために何をするかというと、やっぱり企業誘致だとか工場があつたらいいとか会社があつたらいいと。今もそう言っている人は多いです。もちろんそういうことも元気になる部分はあると思いますけども、私は、それよりもっと大事なことは人だと思っています。人が人を呼ぶのがこれからの社会だと思います。今日のこの場所は県政タウンミーティングですけども、私が来て、県の広報県民課が若者タウンミーティングをやろうと思っても、今みたいな盛り上がりは多分ないですよ。山田さんがいたから今の大変すばらしいお話も聞けたと思いますし、そういうお話をしてくれる皆さんがいるから集まってきた方もいるんじゃないかと思っています。このことは、ただのイベントだけじゃなくて、暮らしとか働くということも、やっぱりあの人がこの会社で働いているからここに行ってみたい、あのまちでこんな活動している人がいるから私もここで一緒に何かやってみたいと、だんだん世の中がそう変わってきていると私は思っています。

今日は県知事なので、県知事としての仕事をしなければいけないのですが、「あなたの『お気に入り』ながのけん」という冊子、配られていますか。長野県は今、地方創生、信州創生に取り組んでいます。要は、人口減少をどう食い止めるか、そして人口減少社会であっても活力ある地域をどうつくっていくか、これが一番大事だと思っています。この中で、信州創生の基本方針になるものを6つ掲げています。4ページから、みんなで取り組む3つのことと書いています。ちょっと柔らかく書いていますけど、これは信州創生の総合戦略の中に書いてある6つの基本方針を掲げています。一番最初に書かせてもらっていますけども、「人生を楽しむことができる多様な働き方・暮らし方の創造」、これが信州創生の基本方針の一番最初の柱です。普通、行政の文章は「楽しむ」とか、そんな情緒的なことはあまり使わないと思ってますが、私はあえて楽しむということを入れさせてもらっています。それから「働き方・暮らし方の創造」。働き方とか暮らし方というのは、創造するものだとは多分、今まであまり認識されていないんじゃないか、あるがままの暮らし、あるがままの働き方を受け入れているというのがこれまでの一般的な形だと思います。今日も午前中、働き方改革の会議をやりました。先ほど菊池さんから3地域を拠点にしているというお話がありましたけども、私も今2地域拠点です。私、仕事があるので長野の宿舎に入っていますけども、家は小諸につくりました。小諸と長野と両方で暮らしています。長野県は2地域居住されている方が多いです。それから、働

き方でも、例えば夏は農業やって冬はスキー場という働き方は、長野県にとっては決して異次元の話ではなくなりつつあるんじゃないかと思っています。都会に行くと、満員電車に乗って大きな会社に勤めるのがいいと固定観念に縛られている人たちがまだ大勢いるんじゃないかと思っています。そこら辺は、長野県では、さっきの御田町商店街もそうですけども、本当に新しい働き方とか新しい暮らし方をつくり出そうとしている人たちも大勢います。また、田舎暮らしの本によると、長野県は移住したい県ナンバーワンです。移住をされて長野県で違った働き方、例えば今まで製造業で働いていたけど、長野県で農業をやりたいとか、リタイヤして都会のごみごみした暮らしじゃなくて自然豊かな長野県で生活したいなど、そういう人たちも大勢来始めています。

人生って何が目的かといったら、やっぱり楽しまなければしょうがないだろうと思います。楽しむというのは、何かだらだら遊ぶということじゃなくて。あまりこんなことを言うといけないけど、私は知事の仕事していることは楽しいです。仕事が大変だという部分もありますけども、それでも楽しい。あるいは、いろいろなボランティア活動することによって、楽しんでやりがいを持っている方、家族と過ごすことが楽しい方もいらっしゃると思います。楽しみ方、充実感は一それぞれいろいろあっていいのだけれど、やっぱり最後は楽しさ、やりがい、充実感に結びつかなければ、何のために生きてきたかということになると思います。長野県は、そういう意味で、人生の充実感とか楽しみをみんなが満喫でき、そういう人たちがいることによってどんどんそういうものを、いい意味で感染させる社会にしていきたいと思って、一番最初のところに「人生を楽しむことができる多様な働き方・暮らし方の創造」と入れています。

先ほど、妄想という話もありましたが、今日はぜひ、皆さんでガンガン妄想して語ってみたいと思います。いろいろな人たちと対話をしても、行政がやるとこれくらいしか実現できないよねということで、ありきたりの話や実現可能性の程度を考えた話になります。そうするとやっぱりおもしろくないですし、それだけじゃなくて、何よりも、そのレベルのことをやっても絶対に世の中は変わらないと思います。私もスマートフォンを持っていろいろやっていますけれども、私が子どものころはこんなものができるなんて夢にも思わなかったですから。例えば20年前、30年前のそのときの常識で語っていれば、今の社会は多分、見通せてなかっただろうと思います。これから20年後、30年後、長野県は多分劇的に変わっていくと思いますし、また変えていかなきゃいけないと私は思います。その変え方というのは、ただ単にグローバル化の波に流されたり、しょうがないけど何かこんな社会になっちゃったという消極的な変革ではなくて、長野県に暮らす若い皆さんがどういう地域にしたいのか、どういう長野県に暮らしたいのか、思いを形にしていく変革でなければいけないだろうと思います。ぜひ今日はそういう観点で対話をしてもらいたいと思います。私が腰を抜かすような話をどんどんしてもらいたいということをお願いして、これくらいでいいですか、山田さん。

【山田崇氏】

かなり長いです。

【長野県知事 阿部守一】

ちょっと長くなりましたが、ごめんなさい。では、これぐらいにします。よろしくお願ひします。

【山田崇氏】

ありがとうございました。意気込みをいただきました。

さあ、皆さん、では行きましょう。ここから対話のスタートです。のどが渴くぐらいしゃべっていただきと思います。知事もおっしゃっていましたが、楽しむことが大切。それとどんだんがんだん妄想。今日はこれから15分を2回の限られた時間ですので、少しだけルールを。まずテーマは模造紙に書きましょう。まちにどんなものがあつたらいいですか。真ん中に書いてみましょう。これは後ほど言ひます。それと、せつかくの機会ですので愚痴はやめましょう。おもしろいことをどんだん言ひ。それと、みんなの時間ですので、一人がしゃべり過ぎると15分、あつという間になってしまいます。模造紙をぜひ活用しましょう。テーブルには6人います。しゃべっている人以外の5人は、ぜひペンで表現してみてください。書けない人は可視化をしてみましょう。最初の1分は、テーマについてこんなことを思つたというのを全員で付箋に書いてみるのがいいかもしれませぬ。それから、結論を出そうとしなくてもいい、妄想でいいんです。スマートフォンができるなんて知事も想像しなかつた。想像しないようなことを皆さんにぜひ対応していただきたいと思ひます。

それでは、このテーマです。「まちにどんなものがあつたらいいですか？」まずはタイトルを真ん中に書いていただいて、最初の1分はみんな紙に書いて、こんなことがいいんじゃないかというところからいきたいと思ひます。テーブルの皆さんにごあいさつをしてスタートします。では、皆さん、よろしくお願ひします。対話スタートです。

(第1ラウンド開始)

(第1ラウンド終了)

【山田崇氏】

あつという間の15分でした。皆さん、これが大体15分です。早いですよね。ぜひ皆さん、模造紙や付箋を使って自分の表現をどんだん出していきましょう。

それでは席替えします。6人のテーブルの方、知事と同じ場所に座っている方がA、隣の方がB、C、D、E、F。それぞれテーブルの椅子に番号が付けてあります。7人のテーブルは2人残るようにしましょう。最初のテーブルの方にありがとうございましたと言ひ、それぞれ移動しましょう。30秒で席についてください。

(移動中)

【山田崇氏】

それでは2回目の対話の時間です。2回目も同じテーマでいきます。テーブルに残っていた方が模造紙を使って、こんな話があつたんだよということを紹介するところから始めてくださ

い。ほかの方はほとんどが違うテーブルから来ているので、こんな話があったんだよとか模造紙に書いてあること、これは同じのがあったよということを皆さんで共有していきましょう。

では次の15分スタートします。対話の時間です。よろしくお願いします。

(第2ラウンド開始)

(第2ラウンド終了)

【山田崇氏】

あっという間に15分たちました。

ここからは自分事として、皆さんに声を出していただきます。この対話を通して、私はこんなことをやってみたいというものをA4の紙に書いてください。これから1人15秒プレゼン駅伝をやりたいと思います。いいですか。まずA4の紙に大きく書く。そして15秒で駅伝のようにリレーをしていきます。ではまず、しゃべる。「私はこの商店街に絵本文庫をつくりたいと思っています」。紙を置いて、次の人も「商店街の中に地ビールがたくさん飲めるビアホールができたらいいなと思っています」。そうしたら紙を置いて、次の人が「この地域には若者を応援する大人をもっと増やす」こんなリレーを全員で行きます。

15秒でパッと見せて伝わる。よく見えるように太いペンで書いていきましょう。さあ時間を計ります。まちづくりは駅伝です。では、これから自分が自分事として取り組むこと、みんなの前で宣言してみたいことを3分で書きます。よーい、スタート。

(全員が用紙に記入)

時間となりました。

それでは、紙だけ持って、皆さんスタンドアップ！立ってください。全員で一つの大きな輪をつくります。

さあ、それではここから皆さん、15秒駅伝を行います。15秒たったら強制終了でマイクが奪われます。拍手はなしです。行きますよ、よーいスタート。

(全員が15秒で、次のとおり発表)

- ・その辺の通路に黒板とかチョークとか散在していたら何かすごい人が集まって、議論とか話し合いとかできるんじゃないかなと。
- ・自分の得意分野を活かせる「〇〇（まるまる）会」をやります。
- ・商店街に焼肉屋とビヤガーデンとをもってたくさんの居酒屋がほしいです。
- ・元空き家、元一軒屋の自宅を改装して、面白い人が集まって夢を語り合うような熱い週末バーをつくります。
- ・町バルを企画して実行したいと思います。
- ・だれでも集える、何でも100円のバーがあればいいと思います。
- ・若い人でも、今まちに住んでいる人でも、本当に気軽に話せるような、誰でも話しかけて気

持ちいい人がほしいなと思います。

- ・お酒デビューがしたい若者が入りやすい、お酒のない居酒屋がほしいです。おつまみがおいしいところ。
- ・今、人とかわかれる場所があまりないので、自分の見方を広げられる場所に行きたいと思っています。
- ・音楽の力で、ぜひもっと盛り上げたいので、音楽を好きな人を増やせる何かをしたいと思います。
- ・地域全てを磯野家にして、世界平和モデル地域にします。
- ・松本で、空き家を使って出会いの場をつくりたい。
- ・本日、佐久市から来たんですが、僕の生まれてきた運命が佐久市に大学をつくることだと思っています。
- ・下諏訪のみならず、諏訪地域のいろいろなところに足を運んで、日本に世界に、もっと諏訪のいいところを発信したいと思います。
- ・もっと地域に飛び出す面白い人が集まる会社をつくりたいです。
- ・塩尻の商店街の中に、夢のあるワイナリーができたらいと思っています。
- ・全国のそば屋を集めてそばフェスをやりたいと思います。
- ・全く知らない人と一台の車を共有して交流できるように、シェアカーを広めたいと思います。
- ・長野県から世界を変える人間を育てたいと思います。
- ・大門商店街にシェアオフィスを借りました。外国人の旅行者が普通に過ごす拠点にします。
- ・塩尻の得意分野であるワインをもっとアピールしていったらいいと思います。
- ・あらゆる人と全力で誰かのつくりたいものをつくる、そんなゲストハウスをつくりたい。
- ・好きなことができる町にしたいと思っているので、皆さんのやりたいこと、そういったことを、同じものをやりたい人をつなげていけるようなことをしたいです。
- ・ワインを飲んで、そのまま酔いつぶれて寝れるようなシェアハウスをつくりたい。
- ・私は、今ただの空き家になってしまっているところを使えるようにするために、空き家の掃除、始めます。
- ・時間制限のない、いつまでいても文句が言われないレストランがほしいです。
- ・時間とか場所とか人とか、いろいろなものに注目していろいろ考えていきたいと思っています。
- ・医業者なので、地域の人々と医業者が気軽に触れ合えるコミュニティサロンみたいなものをつくっていききたいと思います。
- ・私やあなたの新しい世界が広がるような、魅力ある本と出会える本屋さんをつくりたいと思います。
- ・地域の人たちが安く何かで受診できる病院があったらいいなと思います。
- ・異職業も人々がつながりをつくって、誰でも塩尻で挑戦できるシステムをつくりたいと思います。

- ・市長、みどり湖畔のマレットゴルフ場にツリーハウスガーデンを、来年の5月から8月でつくらせてください。
- ・バイオマス発電所を中心とした6次産業モデルというのをつくってみたいと思って、絵は描いてあります。
- ・ワインならワイン、登山なら登山で、テーマ別の空き家を改装して、それぞれの〇〇(まるまる)コンパというのを開いてくれたら、喜んで行きます。
- ・ヨーロッパ野菜をつくって、町おこしをしたいと思います。
- ・いろいろな夢が交わる場を、リアルが生まれる場にしたいと思います。
- ・もっといろいろなところに住んでいる人や働いている人、そういった方がつながれるような場をつくりたいと思います。
- ・プチ企業が出来る場所をつくりたいと思います。そんな人を集めたいです。

【山田崇氏】

ちょっと待った。ここで一人飛び入りを。ぜひ私もしゃべりたいという方がいます。小口利幸さん。こちらに来てください。では。

【塩尻市長 小口利幸氏】

若者の夢を邪魔しないまちにしたいです。

【山田崇氏】

ありがとうございました。

では、知事。

【長野県知事 阿部守一】

2つ書きました。一つは、大人が楽しめる場所。それからもう一つはアウトドア、アクティビティの拠点。こういうものは町の中にちゃんとつくって、そこから山へ行ったり湖へ行ったり。そういう拠点をぜひ町の中につくりたいなど。

【山田崇氏】

今日の皆さんの全員の声が出ました。今日は傍聴の方も全員聞いていますし、しゃべった皆さんもいろいろな人の声を聞いて、あとはどうやって実現していくのか、もっとこういう声を出せる人たちをどうやってつくっていくか、こんなことをやっていきたいなど思っています。

今日は県政タウンミーティングということで、この若者の声について、最後に長野県知事の阿部守一さんに講評と感想、気づき、それと行動宣言までしていただけると非常にうれしいと思います。

3 知事総括

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、今日はどうもありがとうございました。さっき山田さんに言ってもらったように、こういう場づくり、あるいはこういう人との対話の場を、県ももっと意識的につくっていきたいと思いますけど、別に、こういうのは行政がやらなくてもいいので、皆さんのそれぞれが、それぞれの場所でどんどん広げてもらいたいなと思っています。

私は夢は叶うと思っている人間なんですけれども、ただ形がイメージできない夢はいくら夢として持っていたとしても、多分、実現はできません。皆さん、まだ妄想し足りない方が多いんじゃないかと思いますが、妄想して、やっぱりそれを具体的なイメージにできると、あとは市も県も、若い人たちの夢が実現するように応援しなければいけない立場だと思っています。ただ、私は行政をやっていると思うんですが、行政なんかあまり当てにしないほうがいいと思います。ろくなものにはならない。あれはしてはいけないとか、補助金もらったらこんな規制があるからそんな使い方してはいけないとか言われるのがオチですから、自分たちで行動して自分たちで実現していく道を考えてもらって、だけど、ほんのちょっとここだけ何とかしてくれというのは、小口市長、一緒に応援しますよね。だから、宣言しようと言うなら、そういう意味では、私は若い皆さんの夢の実現を全力でしっかりと応援していく、そういう県政をつくっていきたいと思っています。ですから、そのかわりというといけなかもしれないですけど、やっぱり皆さんが夢を持っていないと、冒頭言ったように何にも変わりません。世の中に流されるだけ、あるいは何か、都会でちょっとはやったものが流れてきて、それと同じようなことをするだけということになります。私は今日、皆さんと話をしている、長野県という環境の中で、すごくオリジナリティのある発想を持った人たちはいっぱいいると思っています。いっぱいいるけれども、だけど、そんなことを考えたって無理だよとみんな思っていないですか。思っているよね。思っているから世の中、動いていけないので、自分たちが持っている夢をやっぱり実現しようと周りの人にも知らせて、そして自分も一歩でいいから踏み出せば、私は、世の中は確実にもっともったいい方向に変わっていくだろうと思っています。そういう意味で、私も小口市長と一緒に、長野県がもっと若い人たちが活躍できる場になるように頑張っていきますので、今日少し妄想の一端を出してもらいましたが、ぜひ皆さんももっと大きな妄想を膨らませて、実現に向けてちょっとだけでいいですから行動してもらえれば、一人一人の行動がシナジー効果を起こして必ず大きな流れになっていくと思います。ぜひよろしくお願ひします。ありがとうございました。

【山田崇氏】

ありがとうございました。とても熱くて、すごくいい場になってきました。この場を皆さんにつくっていただきました。全員がいてこそ、この場ができましたので、まずはここにいる全員、それは準備をしてくれた方、全ての方に皆さんで拍手を。ありがとうございました。

この後、全員で記念写真を撮りたいと思っておりますので、お集まりいただきましょう。

(記念撮影)

【山田崇氏】

今日、皆さんの声が知事にも届きました。一人ひとりの県民の声が長野県をつくれます。ゲストとして協力いただきました紫牟田伸子さん、左京泰明さん、斉藤希生子さん、菊池大介さん、ありがとうございました。

私がいただいた時間はここまでですので、県の方にバトンを返したいと思います。「ひとりじゃ円陣組めない。」知事の隣でこんなスピーチをしたのが1年前でしたが、またお会いできて、今日は本当に嬉しかったです。本当にありがとうございました。

それでは、「若者ととともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」、以上で終了となります。ありがとうございました。

4 閉 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

山田さん、本当にありがとうございました。それから参加者の皆さん、どうもありがとうございました。

それではこれもちまして、県政タウンミーティングを終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。